

生活に沿うまちづくりを



高架化、公共空間で議論

沼津市で29日開かれた静岡新聞社・静岡放送の「サンフロント21懇話会」東部地区分科会のパネル討論で、登壇者らは鉄道高架化に伴う沼津駅周辺の現状と、公共空間を生かした町の在り方について意見交換した。歴史や課題に焦点を当て、居住者のライフスタイルに沿ったまちづくりの重要性を確認した。

サンフロント21懇話会 東部地区分科会

記事を読んで、問いに答えなさい。

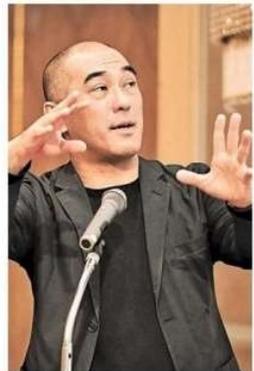
①沼津駅周辺の街づくりについて話し合われている記事を参考に、街づくりに必要な考え方を説明しなさい。

②「アーバニズム」とはどのような考えか。記事を参考に説明しなさい。

③都市計画を考えるために必要なことは何か。記事を参考にしながら、あなたの考えを書きなさい。

同市の頼重秀一市長は東海道線により駅の南北が分断され、中心市街地で一体となったまちづくりができていない課題を挙げた。鉄道高架化により現れる空間を最大限活用し、住む人や事業をする人が楽しいと思える場にした」と思いを語った。東京大大学院の中島直人准教授は住む人にとってその場所が特別であることが重要とし、「歴史やストーリーをまちづくりでどう再生させるかが大切」と提案。沼津あげつち商店

東京大大学院・中島准教授 基調講演



2004年から富山でコンパクトなまちづくり事業を始めた。公共交通から活性化し、町で時間を過ごしたい場、楽しめる場を作って居住を再生させる。結果として、ふさわしい商業ができてくるはず。コンパクトなまちづくりは、都市生活の選択肢を増やすことが重要。

楽しみ方からデザイン

アーバニズムは都市における人々の生活と理想的な都市にする計画の両方を捉えること。コペンハーゲンを訪れた際、平日なのに地元住民が町で楽しんでいる姿に驚いた。その土地では、環境と町を楽しむための時間があった。都市計画はライフスタイルそのものから考える必要があることに気づかされた。都市空間をデザインするには、都市生活の楽しみ方を考えていかなければいけない。

街振興組合の小松浩 理事
長（REFS代表取締役）
はこれまで仕掛けた取り組みを振り返り、「公共空間の使い方はイベントを通じて考えていければ」と話した。
(東部総局・天羽枝子)

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 伊藤 大介

(静岡聖光学院中学校・高校 教諭)(中学校～高校/社会、総合)

生活に沿うまちづくりを



高架化、公共空間で議論

沼津市で29日開かれた静岡新聞社・静岡放送の「サンフロント21懇話会」東部地区分科会のパネル討論で、登壇者らは鉄道高架化に伴う沼津駅周辺の現状と、公共空間を生かした町の在り方について意見交換した。歴史や課題に焦点を当て、居住者のライフスタイルに沿ったまちづくりの重要性を確認した。

サンフロント21懇話会 東部地区分科会

記事を読んで、問いに答えなさい。

①沼津駅周辺の街づくりについて話し合われている記事を参考に、街づくりで必要な考え方を説明しなさい。

(例) 住む人や事業をする人が楽しいと思える場を街の歴史やストーリーを大切にしながらつくっていくこと。

②「アーバニズム」とはどのような考えか。記事を参考に説明しなさい。

(例) 都市における人々の生活と理想的な都市にする計画の両方を捉えること。

③都市計画を考えるために必要なことは何か。記事を参考にしながら、あなたの考えを書きなさい。

(例) 外国では平日でも地元住民が町を楽しむ環境にあるところがあり、日常のライフスタイルそのものを考えることが都市計画に必要である。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 伊藤 大介

(静岡聖光学院中学校・高校 教諭)(中学校～高校/社会、総合)

同市の頼重秀一市長は東海道線により駅の南北が分断され、中心市街地で一体となったまちづくりができていない課題を挙げた。鉄道高架化により現れる空間を最大限活用し、住む人や事業をする人が楽しいと思える場にした」と思いを語った。東京大大学院の中島直人准教授は住む人にとってその場所が特別であることが重要とし、「歴史やストーリーをまちづくりでどう再生させるかが大切」と提案。沼津あげつち商店

東京大大学院・中島准教授 基調講演



講師を務めた中島氏

2004年から富山でコンパクトなまちづくり事業を始めた。公共交通から活性化し、町で時間を過ごしたい場、楽しめる場を作って居住を再生させる。結果として、ふさわしい商業ができてくるはず。コンパクトなまちづくりは、都市生活の選択肢を増やすことが重要。

楽しみ方からデザイン

アーバニズムは都市における人々の生活と理想的な都市にする計画の両方を捉えること。コペンハーゲンを訪れた際、平日なのに地元住民が町で楽しんでいる姿に驚いた。その土地では、環境と町を楽しむための時間があった。都市計画はライフスタイルそのものから考える必要があることに気づかされた。都市空間をデザインするには、都市生活の楽しみ方を考えていかなければいけない。

街振興組合の小松浩 理事 間の使い方はイベントを通じて考えていければ」と話した。

長 (REFS代表取締役) (東部総局・天羽核子)

はこれまで仕掛けた取り組

みを振りかえり、「公共空